中国の開港と日本の開国をくらべる

欧米はなぜ開港・開国を求め、清と日本の始まり方とその後はどう違ったのか

背景：工業化した欧米の国々が、軍事力を背景に、原料と製品の市場を世界に求めた（産業革命・蒸気船）

	清（中国）	日本（江戸幕府）
1 欧米が求めたこと	開港場を増やし、貿易の制限を大きくゆるめること（イギリスなど）	国交を開き、寄港する船に水・燃料などを与えること。のちに貿易を始めること
2 始まり方	**1840〜42年　アヘン戦争** アヘンの取り締まりをきっかけに、イギリスと戦争になる	**1853年　ペリーの来航** アメリカの艦隊が浦賀沖に来て、開国を求める
3 結んだ条約	**1842年　南京条約** 香港島をゆずり、5つの港を開く **1843年　追加の取り決め** 領事裁判権・協定関税などを定める	**1854年　日米和親条約** 下田・箱館を開く **1858年　日米修好通商条約** 神奈川・長崎などを開き、貿易を始める
4 その後の国内の動き	さらに開港場の増加などを求められ、再び戦争に（アロー戦争）。開港場が増える 国内では大きな反乱も起きる	開国が国内の政治の大きな変化と結び付き、幕府が倒れて、新しい政府ができる（明治維新）

共通：領事裁判権を認める
関税を自由に決められない

考えよう　戦争の後に結んだ条約か、艦隊の来航を背景にした交渉で結んだ条約か。
始まり方の違いは、その後の国内の動きとどう関わるか。

※ 主な事柄だけを示す。条約の年は結んだ（調印した）年。清は当時の国の名前。